

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第5回）
議事要録

日時 平成22年8月23日（月）午後7時～午後9時05分
場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、飯村雅洋委員、村井寿夫委員、藻谷征子委員、
塩澤誠一郎委員、石黒愛子委員、木村文委員、千綿澄子委員、島森和子委員、
高石優委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、渡部敏夫委員
事務局（木村浩クリーンセンター所長他）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）
欠席 高橋豊委員
傍聴 4名

1. 委員視察報告

事務局より、8月19日（木）に視察した「かざぐるま明石町」（以下、かざぐるま）「港区立エコプラザ」（以下、エコプラザ）について説明。

- ・ **委員** かざぐるまについては、スペースが狭く、びっしりといった感じであった。しかし、単に陳列するのではなく、ハンガーにかけるなどしており、感心した。また、粗大ごみについても物が蘇り、無駄になっておらず感銘を受けた。エコプラザについては、木の香りが印象に残った。施設も大きいのが、年間7,000万円という運営費用が武蔵野市には程遠いと感じた。しかし、あのような市民が集まる場所は新施設にも参考になると感じた。外構にある風車を利用した外灯や自然植物があったが、子どもだけでなく大人の心も和むものであり、新施設にも自然を利用した何かがあるべきではないかと感じた。
- ・ **委員** かざぐるまの方は、様々な人が運営に係っており、感心した。しかし、情報発信という点では少し弱いと感じた。バザーのようなコーナーは、よく工夫されており、利益重視でなくよかった。しかし、かざぐるま・エコプラザともに区民の利用が少ないように感じた。かざぐるまは、区民優先の姿勢があったが、エコプラザは近隣の勤労者が帰りに寄るような施設であると感じた。エコプラザは、エレベーターや会議室に木のチップを置き、ヒノキや杉の匂いで満たされており、デザインも凝っていた。会議室は登録制で、無料で貸出を行っていたが、椅子や机が重く感じた。エコプラザは、体験などの飽きられてしまう設備は設けずに、スペースとして提供しているところに隙がないと感じた。NPOで運営を行っているが、港区民の姿というのは感じられなかった。
- ・ **委員** かざぐるまのような施設は、新施設にも取り入れられたらと感じた。不用品であった家財道具なども見事に蘇り、それを区民に無料で提供している点に感心した。エコプラザについても、スペースや家具に無駄がなく考えられていたが、武蔵野市には程遠いと感じた。

- ・ **委員** かざぐるまについては、自然に買い物にいったお店のように感じた。同じリサイクル品であっても並べ方一つで大きく変わることを感じた。区民も 50 円から 3000 円までの値段を付けて自主的に参加するという意識があり、それは生かしていければと感じた。エコプラザの方は、3 つに仕切られる大会議室があり、大きくも小さくも利用できるのは便利だと感じた。ダンボールを使った椅子など物を大切にすることを高めることができるし、木の香りも癒されるように感じた。しかし、お金がかかっており、必ずしも武蔵野市で実現できるかは不明であるが、当初しかお金をかけることはできないため、優しいぬくもりのあるものを、できる限り皆さんの希望を取り入れて実現していきたい。
- ・ **委員** かざぐるまについて、建物は洒落ているが中は意外と小さく、そんなにたくさんの仕事をするスペースはなかった。区民が持ち込んだものを希望の値段を設定し、陳列し、売れたらその金額を渡し、売れなかったら戻すというシステムで、武蔵野市で行われているフリーマーケットに比べるとかなり費用がかかっており、効率が悪く感じた。家具は、月に 1 度の抽選会を経て無料でもらえるが、輸送費は自己負担であり、この仕組みが大きな役割を果たすにはまだまだ展望が開けていないと感じた。エコプラザについては、様々な工夫が行われていた。しかし、あれだけの人数と設備を導入して、どこまで利用されているのか疑問が残った。武蔵野市においてもあのような施設があればよいが、行政など公的な機関が運営すると責任や安全など管理に対して非常に細かい。多くの教室など空きスペースがあってもほとんど利用されていない現状で、新しい施設を作るといことが果たして正しいのかと感じた。
- ・ **委員** かざぐるまについて、区民から預かって値札をつけるなど手間が非常にかかっていた。それでも手数料も取らず、また売れるといってもそんなには期待できない。一定期間場所を貸して、物販を行うなどもう少し工夫が必要ではないかと感じた。カフェなどを併設し一定の利益を出す、趣味のお店にするなど工夫ができるのではないか。エコプラザについて、イベントホールのような形で様々な使い方ができるのはよいと感じた。新施設においても参考にしていきたい。風力発電設備が設置されていたが、場所も取らず、新施設でも数箇所設置してもよいと感じた。間伐材を使うという姿勢にも共感ができた。国産の割り箸を使おうという運動を行っているが、より啓発して多くの人に広めていくようにしなくてはならないと感じた。
- ・ **会長** エコプラザのダンボールの家具は、エコプロダクト展でも展示・宣伝されており、あのような新しい視点を新施設にも取り入れるべきである。ただし、経費的には不明なところがあり、NPO 法人が 7000 万円で請け負うのは難しいと考える。武蔵野市の場合には、シルバー人材センターと連携するなどソフト面が勝負になると考えている。従来の施設は、作って中身がないというのがよくあるが、今後は中身の勝負が必要である。大学生の活用など様々な対応ができるのではないかと感じた。

2. リサイクルプラザのイメージ化

事務局よりリサイクルプラザのイメージ化、清掃関係に係る従業員数、周辺の会議室数、電線類の地中化の状況について説明を行った。

- ・ **委員** 周辺の会議室数における第2都営の場所が誤っている。
- ・ **事務局** 訂正を行う。緑懇話会も地下室ではなく、1階の喫茶室として訂正する。資料中に不足や誤りがあるため、後ほど指摘をいただきたい。

委員より、クリーンセンター周辺地域の駐車場の展望についての意見書が提出され、その説明があった。環境意識を高め車から公共交通へシフトしていくためにも、クリーンセンター及び陸上競技場脇の駐車場については削減し、その分緑化の推進や歩道の整備などに利用し、スポーツ施設の利用の多い土日に不足する分については、土日に稼働していない公共施設の駐車場を利用することは出来ないかという提案とムーバスのルートや運賃など運用を再検討し、より各施設にアクセスしやすくできないかという提案があった。

さらに、他の委員よりパワーポイントによってプラス機能を創出するための提案があった。地域社会を持続させていくためには、「環境の改善、循環型社会の構築につながる」「地域社会が直面している課題に応える」「雇用を創出し、地域を活性化させる」ことによって、「地域力(人と人の結びつき)」を強めることが必要であり、従来あるリサイクルプラザは「環境の改善、循環型社会の構築につながる」に対応したものはあるが、さらに後ろの2つにも対応するための一例として環境をテーマにした社会的起業や若者の就労支援、ものとして「世田谷ものづくり学校」の紹介がされた。これは、廃校を活用して教室をクリエイターに貸し出し、作業場として活用するというものであり、ここは創業支援機能を持つ。「再生ものづくり」ということもテーマとして取り上げ、陶磁器は金継ぎを、ガラスは再生ガラス製品を、布は裂織を、プラスチックはプラスチック袋再生利用バッグなど、ごみを作って何かを作り出し、それが若者の起業につながるなどはどうかという内容であった。

- ・ **会長** 環境と経済と社会の相互関係についての提案だと感じた。駐車料金を高くすると環境がよくなるというところまで視野に入れる必要がある。また、塩澤委員の提案は、センスが必要である。武蔵野市民だけがお金を使うというよりは、他の地域から新施設に人が集まるように発信をしていく必要があるという提案であり、駐車場の問題も含めて非常に大事な提案であったと考えている。他の自治体では、委員からこのような提案を受けることはあまりなく、素晴らしいと感じた。
- ・ **委員** 市役所駐車場の未利用日を開放するという話は、我々住民にとっては大きな迷惑である。市役所を作る際に、土日は利用しないという約束をしている。土日関係なく、フットサルや市民公園の利用により騒がしいのは困るため、吉祥寺で実施しているようなパークアンドライド方式、必要なところ以外車は乗り入れないというのが低炭素社会を実現する上でも有効ではないか。また、雇用関係について町田市の薬師池公園では、

障害のある方が公園の施設で働いていた。写真館や野菜の売店などで障害のある方の雇用を創出するなどの考えは、非常に大切であると考えている。

- **会長** 日曜日くらいは、排気ガスを浴びないという考え方も大切である。また、低炭素社会については、当初からの提案であるため、より強調して考えていく必要がある。アメリカのデービス・ビレッジなど車を使わない社会を提言していった例は多くあり、我々も考えて行く必要がある。武蔵野市のムーバスを利用する、自転車を利用するなど環境だけでなく自分の健康マネジメントを行うことも大切である。
- **委員** 駐車場を運用できるから拡大するというのではなく、市の交通対策部に宿題として検討をお願いしたい。最近発見した資料で、昭和 48 年の生活道路計画というものがあったが、大野田地区、競技場から成蹊までの範囲に TU 規制計画というのが入っているが、実行されていないようである。クリーンセンターの中心の駐車場を工事車輛などと兼用することで、中央公園の 1 万平米を利用しなくとも何らかの機能を生み出すことができるのではないか。運動施設の部局に譲歩いただければ理想的であるが、もう少しお互いに考えていこうとする姿勢を構築して行って欲しい。
- **市委員** 了解した。
- **会長** まちづくりはある意味、全てが関わり、地域力や人間力を発揮していく。そのためには、市民と行政の協力が重要である。
- **委員** 周辺会議室のリストは、各会議室の稼働率についても知りたい。リサイクルプラザのイメージ化の資料において、印西市の記載について、様々な工房で全て運営をシルバー人材センターが行っているが、どこでもこのような運用方法なのか。
- **事務局** 会議室リストについては、間違いも多かったため、稼働率も含めて修正を行いたい。印西市の例については、別資料からの転載であるが、一般的であると思われる。一般的にシルバー人材センターを活用しているからといって、同じ方法ではなく、違う視点も取り入れながら施設を考えていきたい。次回、そういった資料も提示していく。
- **会長** お願いしたい。先ほど障害者のパン工房の話があったが、販売をどう確保していくかが重要である。私の大学では、週に 2 回障害者の方が作ったパンを学生が販売している。そのような企業と連携するなど、クリーンセンターだけでない仕掛け、ソフトを考えていく必要がある。例えば、三重県の松阪市では中学生が「松阪木綿」を作っておかげ横丁で売っている。こうしたことを通して、販売の仕組み、松阪木綿がどのようなものか、値段というものを学習し、経済的にも成立している。シルバー人材センターと固定的にならず考える必要がある。
- **副会長** センスというのは非常に重要であり、物事をどう整理していくかということもデザインのセンスであると考えている。今日の二つの施設は、非常によい例であると感じた。一方は、リサイクルを地で行き、もう一方はソフトをどう展開するかを考えている。リサイクルというのは、ごみを出す人、実際に作る人、買う人の関係が生まれよいと考える。工房には、かなり広いスペースが必要であり、今回の限られた敷地の中でど

のように設けていくかというのが課題である。

委員よりパークタウンニュースについて説明を行った。

- **会長** 私の住んでいるところでもこういった活動を真似していければと思っている。先ほどエコプロダクト展の話をしたが、12月に開催されるため、一度見に行っていたきたい。

3. その他について

- **事務局** 資料5の合同勉強会の意見については、説明を省略する。合同勉強会は、次回9月7日(火)に開催を予定しており、参加をお願いしたい。合同勉強会の場は、なかなか議論が深いため、この協議会の場でも煙突や白煙について皆さまに説明のうえ議論をいただきたいと考えている。また、次回協議会は、9月14日(火)を予定している。次回以降、エリア・周辺について出た様々な意見を集約していくような議論を行っていく。

閉会